教育のぼりべつ

平成25年
10月1日号
NO.4

発行　登別市教育委員会　0143－88－1100　　〒059-0014　登別市富士町7丁目33番地



登別中学校熊舞

第５０回記念　登別地獄まつりでの発表

元気に２学期のスタート


8月20日＜若草小学校＞

8月19日～20日にかけ、市内ほとんどの小中学校で2学期の始業式がおこなわれました。

若草小学校では、校長先生から、「2学期は楽しい行事がたくさんあります。規則正しいしっかりとした生活に心がけてください。」というお話がありました。

子どもたちに聞きました

・友だちとたくさん遊んだ。
・あっという間だった。
・キャンプにいきました。
・工作が思うようにできませんでした。
・プール学習が楽しみです。

家族の時間づくり



新しい学習指導要領で、「“生きる力”を育むためには、学校だけでなく、ご家庭や地域など社会全体で子どもたちの教育に取り組むことが大切です。」と強くうたわれているとおり、家庭の教育力の向上は、お子様のあらゆる可能性を育み、引き出すための重要な要素です。

これを受け教育委員会では、家族のふれあいの場を具体的に創出するため「家族の時間づくり」を進めています。こうした機会を積極的に活用し、**ご家族のふれあいの時間**をより一層充実したものにしていただきたいと考えています。

1　学校への呼びかけ

市内各小中学校に、新年度の学校行事等を策定する段階で、授業時数確保の観点から休日を増やすのではなく、各種行事の振替日の運用等の工夫により、新たな連休を設けるよう呼びかけました。
（ 3連休以上 ）

2　市内事業所への呼びかけ

保護者の皆さんが勤務する事業所へ**「家族の時間づくり」**のための、休暇取得を呼びかけました。

その上で・・・

3 市内諸施設（民間・公営）への働きかけ

- ○ マリンパーク・熊牧場・登別伊達時代村は、中学生以下は無料。保護者は半額で駐車料は無料。
- ○ 市民プール・総合体育館は、中学生以下・保護者ともに無料。
- ○ ふぉれすと鉱山の宿泊は、中学生以下は無料。保護者は一人まで無料。（マウンテンバイク、スキー、卓球台の利用も無料）
- ○ サンライバスキー場は、中学生以下は１日券無料。保護者は１日券半額。
- ○ 岡志別の森運動公園テニスコート、パークゴルフ場は、中学生以下・保護者ともに無料。ただし、事前予約が必要。
- ○ 郷土資料館は、中学生以下・保護者ともに無料。
- ○ のぼりべつ文化交流館（カント・レラ）は通常時から無料。「まが玉つくり」の体験も無料





これらの特典は弟・妹の幼児を含む中学生以下とその保護者が対象で、祖父母は対象外となっています。
利用には市教育委員会が学校を通して交付する、施設利用券を提示してください。
※ 施設利用券は、各学校が示す「家族の時間づくり連休」の2～3週間前に発行の予定です。

シリーズ 郷土資料館（1）



登別市郷土資料館は、今から32年前の昭和56年、登別市の歴史資料館として建てられました。外観は、姉妹都市である宮城県白石市の白石城を模しています。

館内には、主に登別市の「むかし」を伝える資料や幌別鉱山に関する資料、登別市出身のアイヌ研究で知られる知里家に関わる資料が展示されています。

特に、仙台藩から幌別に移住した片倉家に関わる資料は、当館随一の見どころです。

4万年前の炭化木

登別市内で発見された、約700万年前から北海道に出現したとされるタカハシホタテや、約4万年前のクッタラ火山の噴火で炭化した貴重なトドマツが展示されています。

また、明治から昭和にかけて使用された、衣食住に関わる様々な生活道具や登別温泉の歴史や林業・漁業など、各種産業の道具があり、「むかし」を知ることができます。







＜片倉家ゆかりの品々＞

戊辰戦争で敗者となった仙台藩の重臣片倉家の家臣の多くは、武士身分を保持したまま、明治3年から北海道に移住し、主従ともども開墾に尽力しました。当主の景光と妻タケの野良着などは、開拓当時を知る貴重な資料です。

江戸時代の武術書や当時を記した「明治二年以降片倉家北海道移住顛末」は、市の指定文化財となっています。

＜幌別鉱山の歴史＞

明治39年、幌別鉱山が本格的に開発され、金・銀・銅が採掘されました。

学校や商店などの「町」が形成され、大正時代には硫黄が日本一を誇る生産量にまでなりましたが、時代の変遷とともに、昭和４８年、閉山を迎えます。

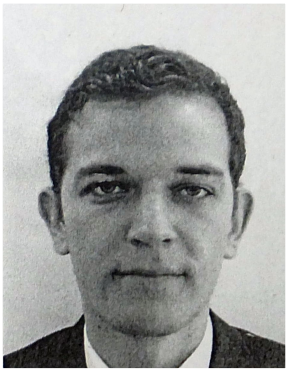
その鉱山関係の道具や写真、地区で伝承された獅子舞などが展示されています。





本号から3回シリーズで、「郷土資料館」を紹介します。**“シリーズ 1”**では展示品について、**“シリーズ 2”**では春の桜や秋の紅葉など庭の様子、**“シリーズ 3”**では文化伝承館でのボランティアさんと子どもたちの活動の様子について紹介していきます。

新しいALT（外国語指導助手）の紹介



これまでのALT ブレット先生 に代わり、新たに
「レニー・マーク先生」が着任しましたので紹介します。

氏　名　　レニー・マーク　　（ Lennie　Mark ）
年　齢　　24歳
出身国　　オーストラリア
出身州　　ニューサウスウェールズ州

※　おもに小学校で英語の授業を担当します。若さにあふれた、元気いっぱいの活躍に期待しています。

「ふるさと豆記者訪問」

登別・白石姉妹都市交流事業報告

登別市では、子どもたちの白石市との姉妹都市交流事業として「ふるさと豆記者訪問」を実施しています。今年は8月5日（月）～7日（水）の日程で、鷲別小学校と若草小学校の子どもたちが白石市教育委員会や白石市立福岡小学校を訪問しました。



白石城





教育委員会への**表敬訪問**後、
白石市役所前で、記念撮影

交流会や体験活動をとおし姉妹都市のよさを実感した三日間でした。



茶道にも挑戦



・福岡小学校の皆さんと「**交流会**」
・本場の「**こけしづくり**」も体験

特色ある教育

青葉小学校



青葉小学校では、すべての学年が地域の方々の様々なご協力を得て、豊かな体験活動を行っています。地域の教育力が子どもたちの生き生きとした活動を支えています。

代表的なものを２つ紹介します。

地域の支えで豊かな体験

◎ スケートリンク実行委員会

青葉地区には、地域でつくるスケートリンクがあり、今年度で 26 年目を迎えます。地域・保護者・学校の、「子ども達に楽しく冬の体力づくりをしてほしい」という共通の願いに支えられ、氷上を生き生きと滑る子どもの姿が見られます。

◎ クラブ活動

今年度のクラブ活動は１２の活動に分かれて行っています。すべての活動に地域の方を先生としてお迎えしています。その道の達人にアドバイスをいただくことで、子ども達の旺盛な活動意欲が引き出されています。



スケートリンク祭



クラブオリエンテーション

～人と人との関係づくりを中心に～

緑陽中学校

緑陽中学校では、総合的な学習の時間の中で「 人と人との関係づくり 」を中心に、ソーシャルスキルトレーニングを行っています。



＜ソーシャルスキルトレーニングを体験する生徒＞



「スタンドアップ」



「緑中スカイツリー」

ソーシャルスキルとは…「他者との良好な関係を形成し、それを維持していくための知識や技術」のことです。総合的な学習の時間の中で、生徒同士が教えあったり、学びあったりする場面をより多く取り入れています。例を挙げると、「緑中スカイツリー」では、新聞紙2枚でできるだけ背の高いスカイツリーをつくること。「スタンドアップ」では、体育座りをしている状態から全員で一斉に立ち上がること。

2つの授業ともに、協力しなければできないようになっています。お互いに恥ずかしがらず、相談したり、声をかけ合ったり、協力しなければできないことを学びます。授業を重ねることでお互いに積極的にコミュニケーションが図れるようになってきます。

幼保・小・中連携協議会の開催！

7月18日（木）に「登別市幼保・小・中連携協議会」が開催されました。

この協議会は、子どもたちの発達段階を踏まえ、新たな環境へのスムーズな移行を図るための方針や実際の取組を提示します。具体的には、学びの連続性、指導の連続性、情報の共有化といった観点から子どもたちの問題点を把握し、その改善のための取組について協議します。

広報“第3号”で紹介した「幼保小連携連絡会」は、こうした取組のひとつです。


協議会の様子





小1プロブレム
・教室での立ち歩き
・授業中おちつかない

小1プロブレム



中１ギャップ

中１ギャップ
・不登校生徒の増加
・問題行動の増加

～ 教育委員会の動き ～

第5回教育委員会　7月24日（水）

＜情報提供・交流＞

○　登別市の学力向上対策
○　第１回幼保・小・中連携協議会
○　家族の時間づくりプロジェクト
○　メール配信システム等を活用した学校の情報化
○　新規ＡＬＴの概要
○　登別市版コミュニティスクール計画の概要
○　平成２５年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業
○　第１回のぼりべつ夏祭り　～いぶり食と文化の祭典～
○　平成２５年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会

第6回教育委員会　8月26日（月）

報告第4号　学校給食センター内の水道管修繕
議案第4号　平成２４年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価報告

＜情報提供・交流＞

○　家族の時間づくりプロジェクト
○　適正配置基本計画の策定
○　耐震化実施設計委託費の補正
○　第４回登別市学校給食展


幌別東小学校はまなすメート「流しそうめん」

話し合いの概要（「家族の時間づくり」から）

＜委　員＞

祝祭日など年間の休日が多くなり、また、共働きの家庭も増えているなか、こうした取組は市民から歓迎されるのでしょうか。

＜事務局＞

子どもとの会話が少ないといわれている今、少しでも多く、家族で過ごす時間をつくることがねらいです。道の運輸局からお話をいただき、本市は観光地であり、家族で楽しめる環境が少なくないことから、取り組むことにしました。

全道で初めての試みです。問題点や成果を検証しながら進めてまいります。